

じめがおか

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>

II

2019

No. 177



英国の田舎の古いホテルにて

東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅—XLIX

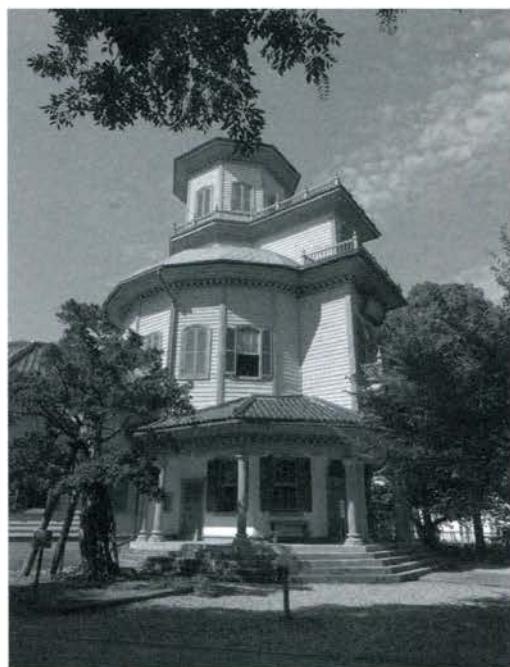
下馬部会 斎 藤 賢 一

今回は山形を訪れます。東北地方は福島県を除き、古い石造物はほとんどありません。山形県も同様ですが、山形市近郊にとても古い石の鳥居が10基あります。日本海側の庄内地方にも興味のある石仏があり、また羽黒山の五重塔も見学したいと思います。

まずは山形新幹線に乗り山形で降りてレンタカーを借ります。市内には見るべき石仏はありませんが旧山形県庁（写－1）や済生館病院（写－2）、師範学校などの歴史的建造物を見学します。市街の南東に位置する「元木の石鳥居」から見学開始です（写－3）。最上三鳥居の一つで重要文化財です。明神鳥居様式で柱をはじめ各部分が太く幅に対して高さが低いことが古い様式を示しています。937～976年に奉納されたと言われ、日本最古のものと言われています。同じ時期に奉納され重文に指定された成沢の八幡神社にある「成沢の石鳥居」も近くにあります（写－4）。1109年に建立され、とても良く似ていますがこちらの方が背が高いのでスマートな印象を受けます。

次に将棋で有名な天童へ行きます。町の外れに石仏寺はあります。ここに妙高の関山と同じ凝灰岩で彫られた生け込み式石仏が5体安置されています（写－5）。鎌倉時代に作られ保存状態は良くありませんが

どっしりしたおおらかな石仏です。石仏寺は山寺街道沿いにあったものをここに移しました。元の旧石仏寺跡には石像物が残っているのでそちらに向かいます。旧石仏寺跡にも立派な石鳥居「清池の石鳥居」が残っています（写－6）。「元木の石鳥居」「成沢の石鳥居」「清池の石鳥居」を最上三鳥居と言うそうです。



写－2 「旧済生館病院本館」



写－1 「山形県旧県庁舎」



写－3 「元木の石鳥居」



写-4 「成沢の石鳥居」



写-6 「清池の石鳥居」



写-5 「石仏寺石仏」



写-7 「八幡神社本殿拝殿（重文）」

その他石仏、板碑、石幢などが残っています。東根市の与次郎稻荷神社の境内にも同時期の「六田の石鳥居」があります。

隣の村山市の父母報恩寺の隣の道路脇に「古鳥居」があります。これも同じ時期のものと思われます。なぜ古い石鳥居が山形に多いか謎です。山形は地震が少ないので柱が太くてどっしりしているなどと考えられています。これで石鳥居の見学は終了です。近くに旧東村山郡役所があります。とても面白い歴史的建造物なので見学していきます。ここから新庄市へ向かいます。市内の手前に重要文化財の神社がありますのでここも見学していきます。鳥越八幡神社は1638年の造営、江戸時代の様式を伝えるすばらしい建築です（写-7）。彫刻が優れています。

ここからとても行きたかった今夜の宿、肘折温泉へ

向かいます。新庄からは1時間です。新庄から南下して美しい水田の中を通り山の中に入つて行きます。景色は白い花が美しい蕎麦畑に変わります。さらに山の中に入つていくと眼下の銅山川に沿つて肘折温泉が見えてきます。そこへ降りるのは国内最大級のS字を描く肘折希望大橋です。温泉街の道は車一台がやつと通れる狭い道ですが、とても情緒のある通りです。この月山の麓、銅山川沿いに風情あるたたずまいの旅館が20軒を連ね、どの旅館もかけ流しの湯三昧です（写-8）。なんと開湯1200年です。とても素晴らしいお湯と地元の美味しい野菜、お米（夕食と朝食では銘柄が違う）を堪能し朝は5時から朝市です（写-9）。地元の新鮮な野菜やお漬物など売っていますが旅行者は買えないでの、大好きな南蛮味噌を買います。しかも違う人から3個で食べくらべです。



写-8 「肘折温泉」

今日は羽黒山です。駐車場に車を止め、隨神門から繼子坂を下りると杉並木で祓川に掛かる神橋に出ます（ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで三ツ星）。滝を見学して橋を渡ります（写-10）。誠に清々しい気分です。さらに進むと目的の国宝五重塔です。素晴らしいロケーションに建っており、大好きな向上寺三重塔、室生寺五重塔に勝るとも劣らない美しい塔です（写-11）。山頂にある月山・羽黒山・湯殿山の神様が合わせて祀られている三神合祭殿にお参りしてすぐ近くにある羽黒山正善院黄金堂を見学します。ここには迫力のある閻魔像があるからです。境内に屋根をかけたお堂が作られ、閻魔王と司録、司命

（おそらく）が安置されています。

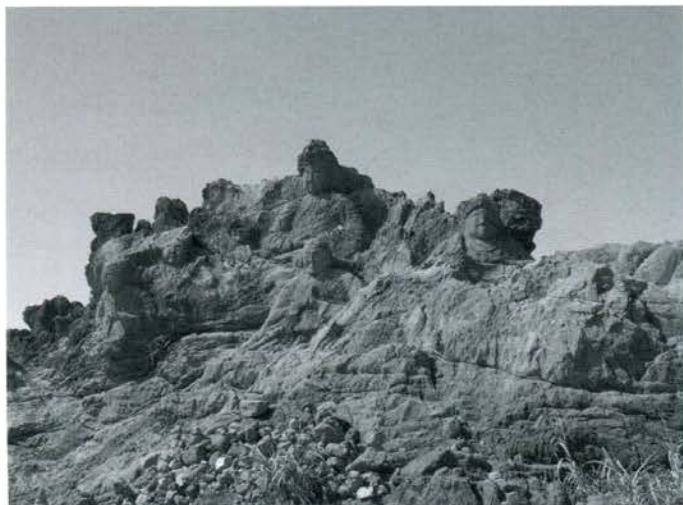
次の目的地酒田に向かいます。酒田の北、鳥海山の麓の吹浦という海岸の岩に今回のハイライト吹浦16羅漢が彫られています。多少迷いましたが無事駐車場に着き、海岸に降ります。16羅漢とは世にとどまって、仏法を護持することを誓った16人の仏弟子のことで、ここにはそのほか釈迦牟尼、文殊、普賢の両菩薩、觀音、舍利仏、目蓮の三像を合わせて22体が岩礁に刻まれています（写-12、13）。見て回れる遊歩道はないので岩に登ったり、降りたり、滑りやすいので大変です。吹浦海禪寺21代寛海和尚が、仏教の隆盛と衆生の救済を願って1864年に造佛を発願し、地元の石工たちを指揮して5年の年月をかけて、22体の磨崖仏を完工しました。150年経った今、雨風や波で風化していますがとても味わいがあります。酒田の町の中にある日和山公園へ行き移築された旧酒田灯台を見学します。明治28年に造られた木造六角様式灯台でとてもお洒落です（写-14）。この公園の中の池には北前船も浮かんでいます。酒田は羽州屈指の港町として発展し廻船問屋の鐘屋（あぶみや）や、戦後の農地改革まで日本一の地主だった本間家などの豪商が活躍した町です。

今夜の宿あつみ温泉までは結構な道のりです。高速道路もありますが、海沿いの道を夕日を見ながらのドライブです。日本海側の道路は夕方が最高です。あつみ温泉は普通の温泉街で海の近くなのにすぐに海

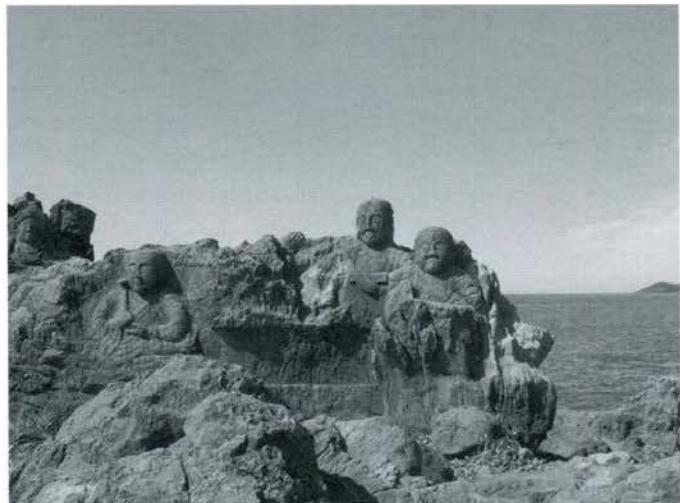


写-9 「肘折温泉朝市」





写-12 「吹浦十六羅漢岩」

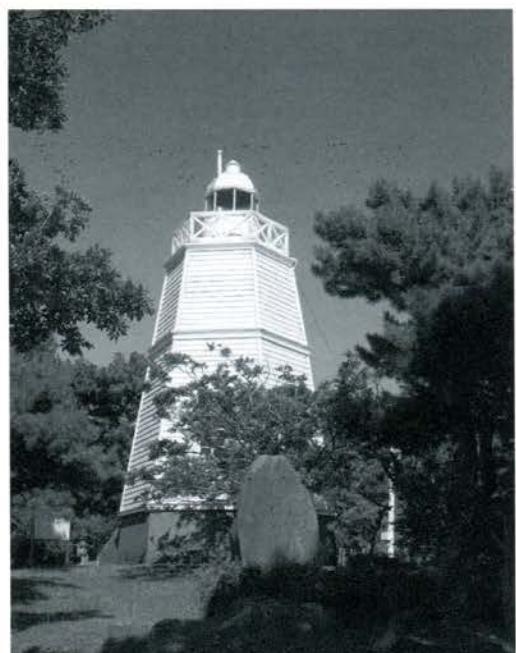


写-13 「吹浦十六羅漢岩 2」

には行けません。私が泊まった旅館は創業300年の和風旅館で檜の源泉掛け流しの露天風呂がついた部屋です。とても安く泊まれました。お湯の質は最高です。翌日は加茂水族館へクラゲを見に行きます。開館が9時なので10分前に着きましたがすでに第一駐車場は満車です。すごい人気です。海岸に面したとてもモダンな水族館です。想像以上にクラゲは美しいです（写-15）。

次は鶴岡市内へ行きます。鶴岡市は鶴岡藩（通称庄内藩）の城下町として盛えた庄内南部の街です。庄内藩の士風の刷新と、優れた人材の育成を目的に、文化2年（1805）酒井家九代目・忠徳公が創設した藩校の致道館があります。国指定史跡として一般に公開され、酒井家の御用屋敷だったところは致道博物館として公開され鶴岡の歴史や文化を知る上で欠かせない施設となっています（写-16）。この博物館はとても良くできた博物館ですが私の目的はこの博物館のお庭に展示されている石仏です。それは阿弥陀三尊来迎供養塔といい、福島県独特の石仏で、経緯は不明ですが、ここにあるのです（写-17）。大正天皇の即位を記念して大正4年（1915年）に建てられた、赤いドームと白壁が特徴の洋風建築物の大宝館、1903年に建てられたヨーロッパ中世紀頃のロマネスク様式をもつ鶴岡カトリック教会などを見学して山形自動車道にのります。月山、湯殿山を通り寒河江へ行きます。

寒河江の本山慈恩寺本堂・三重塔・山門などを見学し、歴史的建造物の旧西村山郡会議事堂・旧西村山郡



写-14 「旧酒田灯台」



写-15 「加茂水族館」

役所へ行きます。長岡山公園の高台に二つの建物が並んで移築されています。郡役所は明治11年、議事堂は明治19年に建てられました。現在は郷土資料館として使われています。これで今回の山形の旅は終了です。山形県でも山形市や新庄市の内陸部と酒田市や鶴岡市の庄内平野とは生活習慣、文化など全てが違います。おそらく山で遮られ、庄内地方は日本海を使った北前船などで関西の文化が入ってきたようです。有名な「芋煮」では庄内地方は味噌味・豚肉ですが、内陸部では醤油味・牛肉です。同じ郷土料理でも使う材料が全く違うことはとても興味深いことです。

山形の写真はホームページでご覧いただけます。

[www.ravana.jp Tohoku](http://www.ravana.jp/Tohoku)→山形



写-16 「致道博物館」



写-17 「致道博物館阿弥陀三尊来迎供養塔」